

逆三角形型の文章を書くには

物語や小説は、たいていしだいに内容がわかっていく構成で書かれています。また、相手を論理的に説得するような文章もそのように書かれてることがよくあります。これらは、いわば「三角形型」の文章です。

けれども、新聞や通信の記事などに適した文章は「逆三角形型」の構成です。はじめのうちに概略や結論がわかってしまうように書きます。

わかりやすい例で示します。ちがいを感じてください。

三角形型の文章

24日午後3時ごろ、〇〇県〇〇市〇〇5丁目の〇〇銀行〇〇支店は閉店間際で、店内には客5人、行員12人がいた。ほか、現金自動預払機（ATM）コーナーにも客3人がいた。

そこに、身長175～180センチくらいで、紺色ジャンパーに黒色ズボン姿、白いフルフェイスのヘルメットをかぶった男が正面玄関前にバイクを止めて銀行内に押し入った。男は拳銃のようなものを数回発砲して、カウンター内にいた女性行員に「金を早く出せ」と要求した。

銀行によると、支店の天井に穴が開き、薬きょうが床に落ちたそうだ。

店内にいた客の女性の話では、「バン」という音が数回聞こえ、男が出入り口に近いカウンターでバッグを差し出していたのが見えたという。

行員は現金を渡さず、男は何も取らずに玄関前に止めたバイクで南方向に逃走した。

けが人はなかった。

県警〇〇署が、強盗未遂容疑で男の行方を追っている。自動式拳銃が使用されたとみて、防犯カメラの映像などを調べている。

逆三角形型の文章

24日午後3時ごろ、〇〇県〇〇市〇〇5丁目の〇〇銀行〇〇支店に男が押し入り、拳銃のようなものを数回発砲して、カウンター内にいた女性行員に「金を早く出せ」と要求した。行員は現金を渡さず、男は何も取らずにバイクで逃走した。けが人はなかった。県警〇〇署が、強盗未遂容疑で男の行方を追っている。

〇〇署によると、銀行は閉店間際で、支店内には客5人、行員12人がいたほか、現金自動預払機（ATM）コーナーにも客3人がいた。男は正面玄関前にバイクを止めて支店に押し入り、事件後はそのバイクで南方向に逃げた。

店内にいた客の女性の話では、「バン」という音が数回聞こえ、男が出入り口に近いカウンターでバッグを差し出していたのが見えたという。

銀行によると、支店の天井に穴が開いており、薬きょうが落ちていたという。県警は、自動式拳銃が使用されたとみて、防犯カメラの映像などを調べている。

県警の調べでは、逃走した男は身長175～180センチくらいで、紺色ジャンパーに黒色ズボン姿。白いフルフェイスのヘルメットをかぶっていた。

三角形型は物語調ですから、それでどうなるのだろうと思いながら読み進めてもらうにはよいのですが、手っ取り早く何が書いてあるのかを伝えるという点では適しているとは言えません。それに対し、逆三角形型は何が書いてるのかをとらえやすくなっています。多くの人に正確につたえることができるのはやはり逆三角形型なのです。

日本人が得意としてきた文章は、「序論・本論・結論」の型であったり、「起・承・転・結」の型であったのですが、通信は、その逆の型で文章を書くときよいのです。

逆三角形型の文章を書き慣れるまでは、次の手順を踏んで書いてみるとよいでしょう。

① 5W1Hで事実を整理する

できごとを伝える場合には、まずできごとを整理する必要があります。複雑な情報であっても、「5W1H」を使って整理してまとめるとすっきりします。「5W1H」は、できごとを正しく伝えるために必要な要素です。

| | | |
|------|--------------|----------------|
| いつ | When | できごとがあった日時 |
| どこで | Where | できごとがあった場所 |
| だれが | Who | 人や団体名などできごとの主語 |
| なぜ | Why | できごとが起きた目的や原因 |
| なにを | What | 何をしたのかという行動 |
| どうした | How | できごとの状態やいきさつ |

この「5W1H」にそって取材ノートや下書きメモを作ると、大事なことの書きもらしがなくなります。

② はじめの段落で5W1Hを書いてしまう

